国民と自衛隊との架け橋！

隊友 湘南支部ニュース

令和８年６月号（No.272）

発行責任者
公益社団法人隊友会 神奈川県隊友会
湘南支部長 中尾 剛久
茅ヶ崎市赤羽根 2661 - 26
Tel：090-4897-4074

「ナフサ考」

湘南支部長 中尾 剛久

関東地方も梅雨に突入しました。先日は気象庁の警報基準の変更直後に神奈川県内でもレベル４の危険警報が発表されました。要警戒の時期が続きます。

さて、今年の二月末にアメリカとイスラエルによるイラン攻撃が突如として始まり、すでに四か月が過ぎようとしていますが、戦争の終結は現時点で明らかとはなっていません。この間、三月にはイランによる国際貿易の要衝であるホルムズ海峡の事実上の封鎖が宣言され、世界経済は大混乱に陥りました。ある推計によれば、ホルムズ海峡の封鎖による世界経済の損失は一時間当たり八億ドル（一二五〇億円）にも上るとのことです。もちろんその影響は日本も直撃しており、封鎖宣言直後から石油関連製品の品薄が広がり、政府はこれまで八〇〇〇万バレル規模の備蓄原油の放出を行っています。これにより日本の経済全体が落ち着くかと思いましたが、それほど都合よく事は運びませんでした。特に石油由来の中間生成物であるナフサが入手しづらくなっていることが大きく報道されるようになりました。各種のインクやそれを希釈するシンナーの入手が困難になっているということで、大手の菓子メーカー等が製品のパッケージの色数を減らすなどの対応をしています。

ところで、これらの話を報道で聞いた時に、政府が備蓄原油を順次放出しているのになぜナフサが足りないのか？さっさと備蓄原油からナフサを作れないのか？と思いました。調べてみますと、そこにはなかなか複雑な事情があるようです。

原油を常圧蒸留して中間生成物としてのナフサが作られます。この段階で別途副産物的にＬＰＧや灯油、軽油、重油等が生成されます。ナフサ自体はその後、改質によりガソリン、芳香族（ベンゼンやトルエン、キシレン）、水素となり、分解によりエチレン、プロピレン、ブタジエン等が生成されます。このような工程を辿るため、それぞれの需要と生産設備の関係が極めて複雑に絡み合うため、中間生成物としてのナフサはそれらのバランスを調整しながら調達（生産や輸入等）が行われています。

国内の石油消費量は人口減少や省エネの効果等もあり、一九九六年頃をピークに減少しています。製油所数も三十年前は約四十であったものが、現在は十九か所と減っています。これは諸情勢から政策的にも製油所の削減・統合が進められた結果でもあります。この結果、国内での石油製品一般の生産能力は減少しています。一方、ナフサ輸入量は年間約二〇〇〇万キロリットル前後で推移していますが、そのシェアは三十年前の約四割から六割に上がっており、しかもその調達先が原油の質と国内製油所との適合性から中質油を産する中東が約七割を占めるようになっていました。このため、ホルムズ海峡封鎖がボトルネックになってしまいました。

政府が備蓄原油の放出を決めたのになぜナフサが足りなくなるのか？という問いには次のような回答になります。まず、技術的な制約や製油所の能力の制約により、ナフサだけを増産することは困難であること及び製油所の能力自体も限定的であること。次に原油備蓄の目的がガソリン、軽油、航空燃料等のエネルギー確保が優先であり、現在課題となっている石油化学製品の原料としてのナフサについては優先順位が低いこと。さらには輸入のほうが経済的にも柔軟性の面からも有利であることが挙げられます。

一九七〇年代の２回にわたる石油ショックと同じように、今回のナフサの問題も多分に思い込みや過剰反応によるところが大きいのではないかとの印象を持っています。政府も調達先の多角化などの施策を取りつつあることもあり、早晩収束するのではないでしょうか。国民としては冷静な対応が必要かつ重要と思います。

令和８年度隊友会湘南支部総会・防衛講演会及び懇親会を開催

支部理事役 深澤 文晴

隊友会湘南支部は、５月２３日㈯に藤沢市商工会館ミナパークにて令和８年度支部総会（２７名）防衛講演会（３５名）及び懇親会（３４名）を開催した。

総会は、国家斉唱、昨年度逝去された会員に対する黙祷、支部長挨拶のあと田中理事役を議長へ選出し議事に入り「令和７年度支部活動・同決算」報告がなされ、次いで「令和８年度支部活動計画・同予算」及び「支部役員の改選」の３議案が提議され、それぞれ満場一致で承認された。

議事終了後は、令和８年度支部長感謝状贈呈があり６名（内５名欠席）の特別会員が支部長から贈呈され、支部総会は無事終了した。

総会終了後、公益社団法人 笹川平和財団 元１等海佐 小原凡司氏による防衛講演会が「米中グランド・バーゲニング －中国の思惑－」と題して行われた。講師は、先の米中首脳会談について、中国が目指す「新秩序」と軍事戦略の思惑を話された。中国の真の狙いは、戦後８０年続いてきた西側主導の秩序ではなく、ロシアと手を組み、グローバルな歪みを正すという名目のもと、「米国と対等な大国関係」を築くことにあり、その枠組みにおいて、敗戦国である日本が防衛力を増強し、中国の邪魔をすることは容認できないとしています。

次に、核心的利益を守る「４つのレッドライン」と通常兵力の増強として、中国は米国に対し、絶対に踏んではならない「４つのレッドライン」を提示している。一つ目は台湾問題、二つ目は民主主義と人権、三つ目は中国の政治体制、四つ目は中

編集委員：深澤文晴 ,℡: 090-4542-1982, Mail: f_fukazawa@yahoo.co.jp

国の発展の権利である。その中で中国が台湾を囲む大規模な軍事演習などで力を見せつけるのは、戦争を望んでいるからではなく、あくまで米国に対する「抑止」が目的とのこと。さらに中国は、核抑止だけでは安心しておらず核抑止が破綻した際、米国の空母打撃群によって中国本土を通常兵力で叩かれるリスクを恐れている。そのため中国は現在、自前の空母打撃群の増強に注力しており、世界中に展開できる空爆能力を持つことで、米国への通常兵力による抑止力を完成させようとしている。また、米国の足元であるラテンアメリカやカリブ諸国へ投資を行い、軍事拠点を確保しようとする動きも見られます。

台湾侵攻の現実味：２０２７年説と「軍事的合理性」の欠如として、直近の「台湾侵攻」の可能性については、軍事的な準備不足と内情から、短期的な可能性は低いと分析されています。中国海軍の軍事インフラ拡張や空母打撃群の建設は、まだ途上段階にあります。さらに、軍が目指す「智能化（ＡＩと兵器の融合）」もこれからの課題であり、軍事インフラの未完成があげられます。次に、軍内部の規律・粛清が優先されているとのことで、２０２６年の全人代（１５次５か年計画）で示されたように、習近平氏の現在の最優先事項は「作戦」ではなく「人民解放軍の内部を綺麗にすること（規律問題）」です。米国の報告書でも、２０２７年中の台湾侵攻計画はないとされています。

最大の懸念として、判断基準の不確実性がある。合理的に考えれば、中国の台湾侵攻は「２０３０年代以降」か、あるいは「そもそも侵攻しない」というのが専門家の見方です。しかし、ここには大きなリスクが潜んでいる。中央軍事委員会の粛清が終わったことで、習近平氏に対して「軍事的な合理性」を説き、ブレーキをかけられる人間が誰もいなくなってしまった。つまり、「軍事的な準備ができていないこと」と「習近平氏が合理的な判断を欠いて命令を下してしまうこと」は別問題であり、この合理性のなさが、現在の中国軍における最大の危険要素となっていると資料を基に分かり易く講演された。出席者から積極的な意見や質問が多々あり、誠に時宜を得た講演で活気のある防衛講演会となった。



講師 小原凡司 氏

防衛講演会に引き続き懇親会は、星野剛士衆議院議員、市川和広県議会議員、松長泰幸県議会議員、鈴木恒夫藤沢市長はじめ来賓多数のご出席のもと、清崎忠圀名誉顧問による乾杯で始まった。講師においては別件があり懇親会には参加できませんでしたが、講演会の内容について多くの方々が輪をなし議論に花が咲いた。盛り上がった懇親会も高木幸夫支部相談役の中締めにより、令和８年度総会・防衛講演会・懇親会の一連の行事が無事終了した。

なお本総会、防衛講演会及び懇親会に対し次の方々から祝電等を頂戴しました事、感謝の気持ちと共にお名前をご披露致します。

・平塚市長 落合克宏様、茅ケ崎市長 佐藤光様、鎌倉市長 松尾崇様、ありがとうございました。

湘南支部 感謝状

次の会員が令和８年度、総会において支部長から長年の功績に対する感謝状が贈呈されましたのでお知らせいたします。

1 感謝状（順不同・敬称略）

被贈呈者（功績等）６名

(1)特別会員 川内美喜男（支部活動に積極的な参加、支部発展向上に貢献）

(2)特別会員 原康二（支部活動に積極的な参加、自衛隊神奈川音楽まつり協賛等を通じ防衛基盤の育成に貢献）

(3)特別会員 原博章（支部活動に積極的な参加、支部発展向上に貢献）

(4)特別会員 牧石健志（支部活動に積極的な参加、自衛隊神奈川音楽まつり協賛等を通じ防衛基盤の育成に貢献）

(5)特別会員 松長由美絵（藤沢市議会議員として多忙な中、支部の発展向上に貢献）

(6)特別会員 吉田実（支部活動に積極的な参加、支部発展向上に貢献）



特別会員 松長由美絵 氏

令和８年度年会費納入者（順不同・敬称略）

湘南支部長（六月十日現在）

次の会員各位から年度会費を納入していただきました。ご協力に感謝申し上げます。

特別法人会員

㈱櫻井興業、

協力会員

岩岸久子、

特別会員

市川和広、吉田清人、井岡成吉、加藤大嗣、木村俊雄、吉田 実、飯島邦光、泉川 博、臼井忠欣、塩坂源一郎、

正会員

加藤健治、三澤征治、太田純一、塩川儒廣、日高 昭、春日 敏、吉富 望、皷 達也、

湘南支部ニュースは、神奈川県隊友会のホームページにも掲載されています。

URL：https://www.taiyukanagawa.com/

「支部の予定」

- **07/04（土）**
  第４回支部理事役会
- **07/17（金）**
  ７月号隊友紙発送
- **08/08（土）**
  第５回支部理事役会
- **08/17（月）**
  ８月号隊友紙発送
- **09/上旬**
  部隊研修(部隊未定)
- **09/18（金）**
  ９月号隊友紙発送
- **09/26（土）**
  第６回支部理事役会

編集後記

米国とイランは１５日、戦闘を終結する覚書に合意したと発表した。素直に歓迎したい。

今後とも各種ジャンルに亘る、ご寄稿のご協力を宜しくお願い致します。

編集委員：深澤文晴 ,℡: 090-4542-1982, Mail: f_fukazawa@yahoo.co.jp